

# はじめての 音楽理論

[コード編]

室生暁 [著]

東京医科歯科大学ジャズ研究会発行

作成日 2009年3月 (たぶん)

## ●まえがき

この文書はコードに関する音楽理論をわかりやすく説明したものです。ジャズをやる人にはもちろん、ロックやポップスをやる人にも役立つと思います。

しかし、いくらわかりやすく説明されたからといって、これらの音楽理論を一回で理解するのは難しいでしょう。実践を積みながら少しずつ身につけていきましょう。

それでも、ここに書いたのは基本的なことだけなので（ってか僕が基本的なことしか知りません）、もっと知りたい人は下記の「JAZZ THEORY WORKSHOP」を読んでください。

ただ、一番大事なのは自分の感性。理論は後からついてきて理解や発展の手助けになるものです。理論的にどうこうより「こっちの方がカッコいい！」という感性を大事にしましょう。

音を出して、それを楽しむのが一番大事。でもそれがもっと面白くなるなら理論知ってもいいかもね。

## ●参考文献

「市ヶ谷低音ゼミナールーベーシストのための超わかりやすい音楽理論ー」

宮脇俊郎著 ベースマガジン

「JAZZ THEORY WORKSHOP JAZZ 理論講座 初級編」

小山大宣著 武蔵野音楽学院

## ●コンテンツ

第一回 基礎知識 ー音名と階名ー

第二回 コードって何？ ーコード構成音と表記のルールー

第三回 調 ー曲の鍵を握れ！メジャーとマイナーー

第四回 ダイアトニックコード ーメジャースケールから7つのコードー

第五回 コードの性格分類 ー不安なコードと安心なコードー

第六回 コード進行 ーツーファイブと循環ー

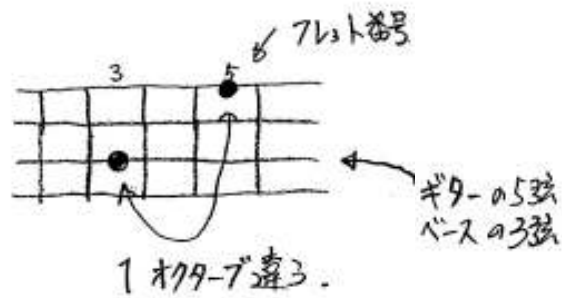
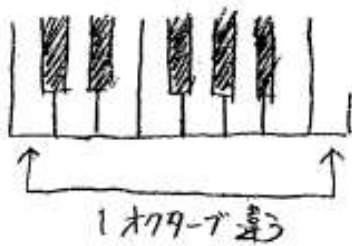
第七回 曲の分析 ー「チェリー」「Fly Me to the Moon」ー

第八回 ブルース ーブラックミュージックの基本であり主役ー

# 第一回 基礎知識

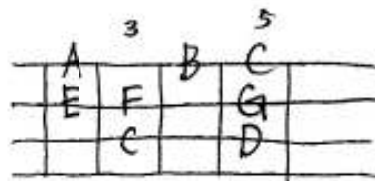
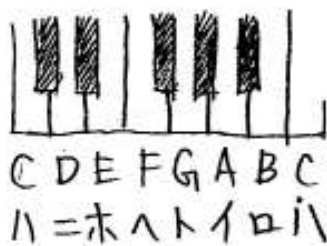
## — 音名と階名 —

### ① 音の名前



1 オクターブ高くなるということは振動数 (Hz) が2倍になるということです。  
 西洋音階では1 オクターブを12等分して音をつくっています。ピアノでは白鍵と黒鍵あわせて1 オクターブ内には12コ、ギター、ベースでは1 オクターブ内には12フレットあります。

じゃあ音に名前をつけましょう!

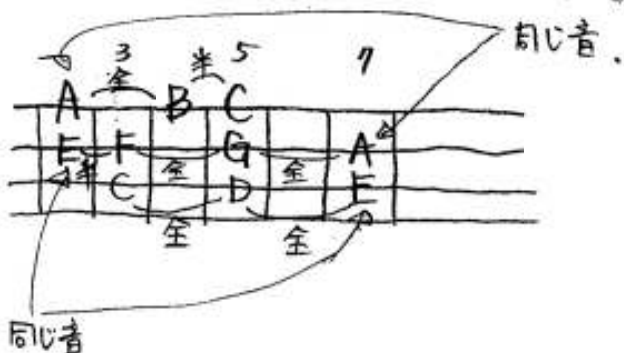
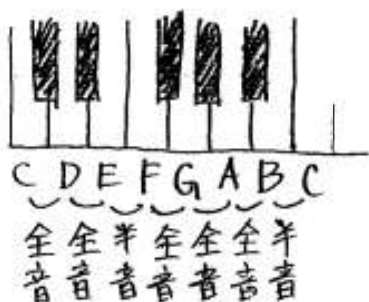


名前のついていない音、つまりピアノの黒鍵の音は (♯ または ♭) というように隣の音に ♯ や ♭ をつけてよびます。

C, D, E... や H = C, B = B... と「音名」といって、音の絶対的な名称です。ちなみに A は 440 Hz。

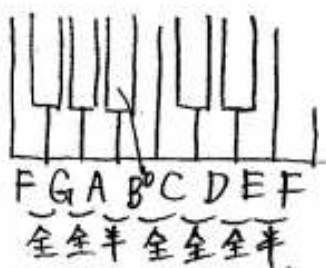
### ② メジャースケールと階名

今度は名前がつけた音の間隔に注目してみましょう。



全音間隔のと二と半音間隔のと三があります。  
 Cからその間隔をみてみると、「全全半全全全半！」  
 声に出して言ってみましょう。

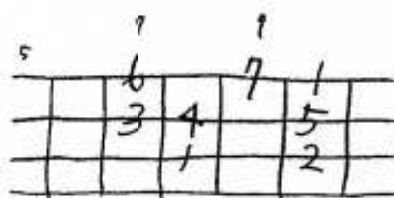
1オクターブ内で、「全全半全全全半」の間隔で並ぶ音列  
 を「メジャー・スケール」といいます。このメジャー・スケール、「全全  
 半全全全半」の間隔を保っていれば、C以外から始めても  
 いいんです。ためにFから始めてみましょう。



Fから始めるとBがB<sup>b</sup>になっています。

Cから始めたメジャー・スケールをCメジャー・スケール、Fから始  
 めれば、Fメジャー・スケールとよびます。

Fメジャー・スケール



ギター・ベースの人は  
 この形を覚えよう!

メジャー・スケール上の音に名前をつけます。1度、2度...や  
 ドレミ...は階名といい、音の相対的な名称です。

Fが1度のときはAが3度、Cが1度のときはEが3度  
 です。

1度の二とはルートともいいます。

**ポイント**

音名 (CDE...) と階名 (123...) メジャー・スケール「全全半全全全半」

# 第二回 コードって何？

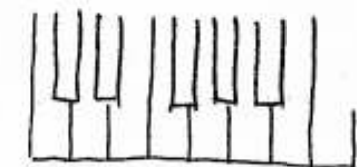
- コード構成音と表記のルール -

## ● コードとは

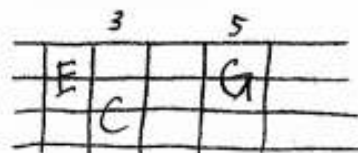
2種類以上の音が同時に鳴っているものをコード(和音)といいます。スケール上の音を一個とばしで3つか4つ重ねるのが普通です。(つまり1度3度5度か1度3度5度7度)

例えばC(Cメジャー)というコードは、C、E、Gで構成されています。

C(Cメジャー)

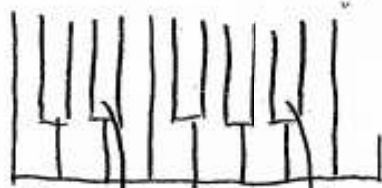


C E G  
(1) (3) (5)

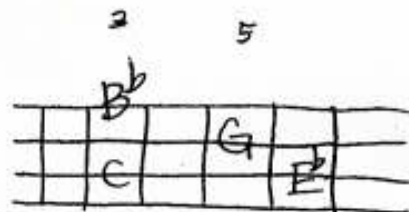


Cm7(Cマイナーセブン)というコードはC、Eb、G、Bbで構成されています。

Cm7(Cマイナーセブン)



C Eb G Bb  
(1) (b3) (5) (b7)



一般的に、1度(ルート)は基準の音、5度は厚みを加える音で、3度がメジャー(明るい)かマイナー(暗い)かを決め、7度が特徴的な雰囲気を加えます。

3度は1度の2音上、5度が1度の3音半上、7度が1度の半音下。

## ● コード表記のルール

□には C, B<sup>b</sup>などの音名が入ります。

表記	読み	構成音 (階名~度)
□	□×マ-	1, 3, 5
□m	□マイナ-	1, b3, 5
□M7	□×マ-セブン	1, 3, 5, 7
□m7	□マイナ-セブン	1, b3, 5, b7
□7	□セブン	1, 3, 5, b7
□mM7	□マイナ-×マ-セブン	1, b3, 5, 7
□dim	□ディミニッシュ	1, b3, b5, bb7

3度, 7度がフラットするかシャープかは以下のルールで決まります。

	♯ (シャープ)	b (フラット)
3度	表記なし	mと表記
7度	Mと表記	表記なし

その他のマ-7.

b5, #5は -5	5度が b5度になる!
6	7度の代わりに 6度を使う。
sus4 (#スフォー)	3度が #3度 (4度) になる。
aug (オーギュメント)	5度が #5度になる。

**和音**

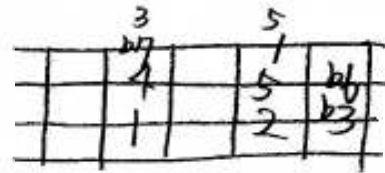
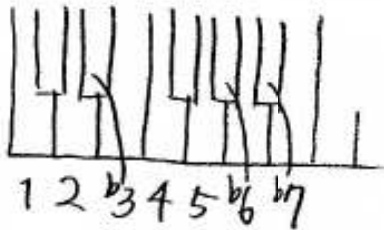
1, 3, 5, 7... と重ねてコードをつくる。      コード表記を覚えよう。

# 第三回 調

一曲の鍵を握れ! Xジャ-とマイナ-

## ① マイナースケール

Cナチュラルマイナースケール



全半全半全全という音間隔の音列をナチュラルマイナースケールといいますが、一度でいいえ 1 2 b3 4 5 b6 b7 です。(マイナースケールは3つあるので"ナチュラル"とつきます。)

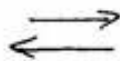
Xジャ-スケール(1 2 3 4 5 6 7)にはXジャ-コードの構成音(1 3 5)が、ナチュラルマイナースケール(1 2 b3 4 5 b6 b7)にはマイナーコードの構成音(1 b3 5)が含まれていますね。

とここで、Xジャ-スケールとナチュラルマイナースケールは表裏の関係にあるんです。

Xジャ-スケールの音間隔

ナチュラルマイナースケールの音間隔

全全半全全全半



全半全半全全



ニから始めると...

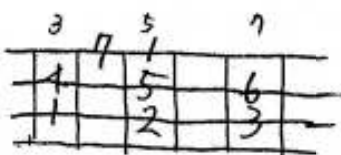
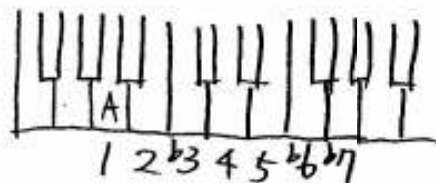
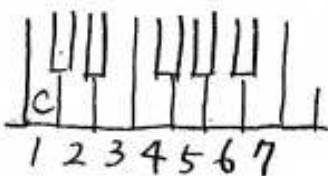
ニから始めると...

ほらね、例をみてみましょう。

CXジャ-スケール



Aナチュラルマイナースケール



メジャースケールの6度から始めるとナチュラルマイナースケールに、  
ナチュラルマイナースケールの3度から始めるとメジャースケールになります。

## ① 調

お曲で、一番の基準になっている音(もしくは和音)を表すのが  
調(key)です。例えば、key = F (Fメジャー)なら、Fが基準、  
key = Gm (Gマイナー)なら、Gmが基準です。

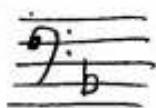
調は、譜面の最初にかかっている b や # をみて判断します。



使う音は  
⇒ C D E F G A B ⇒ キーは  
C か Am



⇒ C D E F G A B<sup>b</sup> ⇒ キーは  
F か Dm  
↑  
ニ、ハ3  
Dナチュラルマイナースケール  
ニ、ハ3  
Fメジャースケール



って感じですよ。上の2つはよく出てくるので覚えておいていいと  
思います。あと、B<sup>b</sup>かGm (bが2つつく)、E<sup>b</sup>かCm (bが3つ  
つつく) もよく出てきます。

メジャーかマイナーかは その曲の明るさや終わりのコードで  
判断します。

## ポイント

メジャーとマイナー、まさに昼の顔と夜の顔。  
ナチュラルマイナースケールを覚えよう。



# 第四回 ダイアトニックコード

- Xジャ-スケールから7つのコード -

## ● ダイアトニックコード

Xジャ-スケール上には7個の音があります。Xジャ-スケールの音だけを使ってコードをつくってみます。それぞれの音から始めれば7個のコードができます。

ここではC Xジャ-スケール(ピアノ)の白鍵)で、4和音のコードを考えましょう。  
C D E F G A B

C			⇒	C $M$ 7
D			⇒	D $m$ 7
E			⇒	E $m$ 7
F			⇒	F $M$ 7
G			⇒	G7
A			⇒	A $m$ 7
B			⇒	B $m$ 7 <sup>-5</sup>

以上7つのコードがつけられます。

C Xジャ-スケールとAナチュラルマイナースケールは同じ音なので、Aナチュラルマイナースケールからもこれら7つのコードがつけられます。

Cメジャースケールから

C $\Delta$ 7, D $\Delta$ m7, E $\Delta$ m7, F $\Delta$ M7, G $\Delta$ 7, A $\Delta$ m7, B $\Delta$ m7<sup>-5</sup>

Aナチュラルマイナースケールから

A $\Delta$ m7, B $\Delta$ m7<sup>-5</sup>, C $\Delta$ M7, D $\Delta$ m7, E $\Delta$ m7, F $\Delta$ M7, G $\Delta$ 7

Xメジャースケールまたはナチュラルマイナースケールから。ついでにこれらのコードを“ダイアトニックコード”とよびます。

例としてあげたのは key = C または A $\Delta$ m のときのダイアトニックコードなので、どのキーでも使えるように、キーの音を1番目として階名で表記します。(コードのときはローマ数字)。

Xメジャーキーのダイアトニックコード

I $\Delta$ M7, II $\Delta$ m7, III $\Delta$ m7, IV $\Delta$ M7, V $\Delta$ 7, VI $\Delta$ m7, VII $\Delta$ m7<sup>-5</sup>

マイナーキーのダイアトニックコード

I $\Delta$ m7, II $\Delta$ m7<sup>-5</sup>, III $\Delta$ M7, IV $\Delta$ m7, V $\Delta$ m7, VI $\Delta$ M7, VII $\Delta$ 7

Xメジャーキーのダイアトニックコードは頑張り、覚えましょう。ちなみに、これは4和音のコードなので3和音では以下のようになります。

Xメジャーキーのダイアトニックコード (3和音)

I, II $\Delta$ m, II $\Delta$ m, IV, V, VI $\Delta$ m, VI $\Delta$ m<sup>-5</sup>

## ポイント

Xメジャースケールから7つのコードをつくる。

Xメジャーキーのダイアトニックコード (4和音) を覚える。

# 第五回 コードの性格分類

- 不安なコードと安心なコード -

## ● トニックとドミナント

音楽って 不安と安心の繰り返しなんです。まるで人生。  
その不安や安心を表現しているものの1つがコードです。



暖かいお家  
〈安心〉



暗い帰り道  
〈不安〉

「あると=3に カジ-君がいました。カジ-君の家には  
あたたかい家族が待っています。安心と幸せに包まれた我が家。  
しかし家への帰り道は暗くて危険。不安がいっぱい。でも  
不安な帰り道せざる=そ、家の安心感がきおたつのでした。  
めせにしまてたし...」

その通り。日常的な幸せは気付きにくいもの。その前に  
不安な時間があってこそ、安心は何倍にも何十倍にも  
感じるんだね。

key = C のとき、不安のコードは G7、安心のコードは CM7 が  
あげられる。不安のコードを "ドミナント"、安心のコードを  
"トニック" といいます。

## ● サブドミナント



お家  
〈安心〉



帰り道  
〈不安〉



彼女の家  
〈ホッと一息  
ちよとドキドキ〉

「ある日 カジミ君はカールフレドの家に行きました。仲良しの彼女との楽しい時間。でも今日は彼女の親がいないので、ちょとドキドキ。でも夕方になつた。家に帰るべき。危険な夜通を通るべきじゃないんだ。それを見ると彼女との時間が一層楽しく感じられるのでした。」

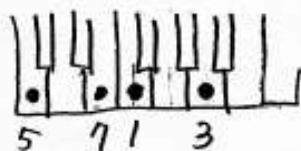
ホッと一息、でもちょとドキドキの楽しい時間。そんなコードは“サグドミナント”。key=C のときは FM7 がそれです。

① ういてみよう

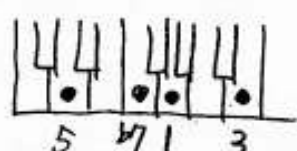
FM7 → G7 → CM7 とういて。サグドミナント → ドミナント → トニークの動きを感じてみよう。

[セア]

FM7



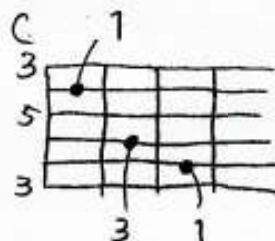
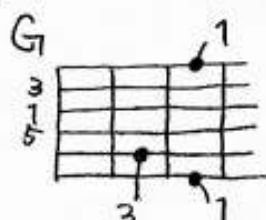
G7



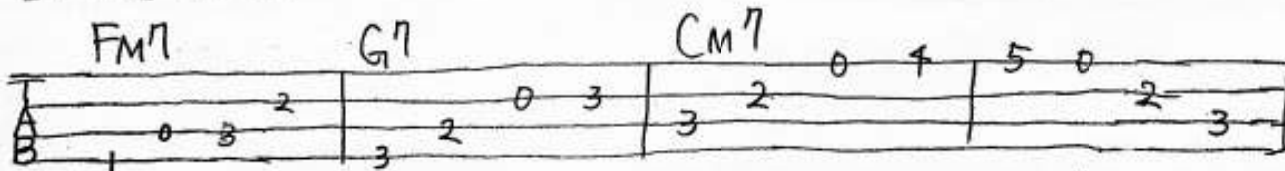
CM7



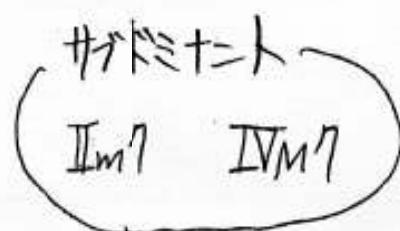
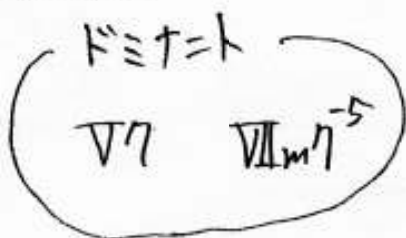
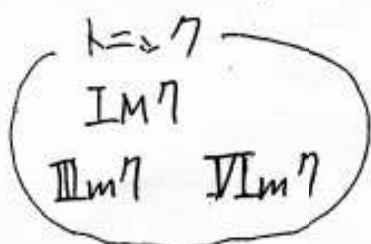
[ギター] (3和音の方が簡単なので3和音でやりましょう)



[ベース] (和音は出せるので、コード構成音をバラバラにします)



② ダイアトニックコードの分類



**ポイント** ダイアトニックコードの3つの分類を覚えよう。

# 第六回 コード進行

## - ツーファイブと循環 -

### ① ツーファイブ

よくあるコード進行をみてみましょう。

$$\begin{array}{ccc} \text{V7} & \rightarrow & \text{I} \quad (\text{または } \text{IM7}) \\ \text{ドミナント} & & \text{トニック} \end{array}$$

ドミナント代表「V7」からトニック代表「I」への動き。これは基本です。

(例: key=C のとき G7 → C)

$$\begin{array}{ccc} \text{IIIm7} & \rightarrow & \text{V7} & \rightarrow & \text{I} \\ \text{サブドミナント} & & \text{ドミナント} & & \text{トニック} \end{array}$$

この進行は「ツーファイブ」とよばれ、ジャズに頻出します。

(例: key=C のとき Dm7 → G7 → C)

サブドミナント → ドミナント → トニックの動きは、ポプスなどではサブドミナントが  $\text{IVM7}$  であることが多いため、ジャズでは  $\text{IIIm7}$  の方が主流です。

上記のはメジャーキーのツーファイブです。では、マイナーキーのツーファイブはどうなるのでしょうか。マイナーのダイアトニックコードを考えれば...

$$\text{IIIm7}^{-5} \rightarrow \text{Vm7} \rightarrow \text{Im}$$

こうなります。しかし実際は...

$$\begin{array}{ccc} \text{IIIm7}^{-5} & \rightarrow & \text{V7} & \rightarrow & \text{Im} \\ \text{サブドミナント} & & \text{ドミナント} & & \text{トニック} \end{array}$$

こうです。マイナーセブによい、セブンの方が「ドミナントっぽさ」(=不安定感)があるので  $\text{Vm7}$  ではなく  $\text{V7}$  を使います。

(例: key=A<sub>m</sub> のとき Bm7<sup>-5</sup> → E7 → A<sub>m</sub>)

## ● 循環

$$I \rightarrow VI_m \rightarrow II_m \rightarrow V$$

トニック      トニック      サブドミナント      ドミナント

この進行は“循環”または“イチ・ロク・ニ・ゴー”とよばれる、くり返し流れるようなコード進行です。

(例: key=C のとき  $C \rightarrow Am \rightarrow Dm \rightarrow G$ )

それぞれのコードのルート音(1度の音)の動き(VI→II、II→V、V→I)が5度進行とよばれる進行になっている。コードが流れるように移ります。(IIにとってVIは5度、VにとってIIは5度、IにとってVは5度)

ちなみに、循環のコードの順番をかえて

$$II_m \rightarrow V \rightarrow I \rightarrow VI_m$$

サブドミナント      ドミナント      トニック      トニック

さらにIを同じくトニックのIII<sub>m</sub>にかえると...

$$II_m \rightarrow VI \rightarrow III_m \rightarrow VI_m$$

サブドミナント      ドミナント      トニック      トニック

このコード進行は“逆循”とよばれる、曲のエンディングに使われることがあります。

(例: key=C のとき  $Dm \rightarrow G \rightarrow Em \rightarrow Am$ )

## ポイント

“ツ-ファイブ”

Xシャ -  $II_m \rightarrow V \rightarrow I$

マイナ -  $II_m \rightarrow V \rightarrow I_m$

循環

$$I \rightarrow VI_m \rightarrow II_m \rightarrow V$$

# 第七回 曲の分析

- 「チェリー」 - 「Fly Me to the Moon」 -

## ● コード進行分析

ある曲のあるコードがどのような役割をしているのか知ることは、曲を理解する上でとても大切です。ここでは2つの曲のコード進行の分析例を示します。

トニークは T、ドミナントは D、サブドミナントは SD と書きます。  
D → T の動き（解決する）には “↘” を書きます。

(例: key=C のとき G ↘ C)

SD → D の動きには “└” を書きます。

(例: key=C のとき Dm └ G)

## ● 「チェリー」 / スペシャル

key=C ダイアトニックコード (3和音): C, Dm, Em, F, G, Am, Bm

C	G ↘	Am	Em	F	C	F	G ↘
I	V	VI <sub>m</sub>	III <sub>m</sub>	IV	I	IV	V
T	D	T	T	SD	T	SD	D

(君を忘れたい 曲がりくねった道を行く 産まれたての太陽と 夢と波の黄色い砂)

C	G ↘	Am	Em	F	G ↘	C	Am	F	G ↘	C	G ↘
I	V	VI <sub>m</sub>	III <sub>m</sub>	IV	V	I	VI <sub>m</sub>	IV	V	I	V
T	D	T	T	SD	D	T	T	SD	D	T	T

(一度と戻らない くさぐさあって転がった日 きっと想像は以上 騒い未来が僕を待っている 愛して)

Am	Em	F	C	Am	Em	F	C	Am	Em	F	C	Am	Em	F	G ↘	C	
VI <sub>m</sub>	III <sub>m</sub>	IV	I	VI <sub>m</sub>	III <sub>m</sub>	IV	I	VI <sub>m</sub>	III <sub>m</sub>	IV	I	VI <sub>m</sub>	III <sub>m</sub>	IV	V	I	
T	T	SD	T	T	T	SD	T	T	T	SD	T	T	T	T	SD	D	T

(目の響き 世界中で強くなる 愛が比喩にやさかな 喜びをくれる (ほど) 抱きしめて)

このように「チェリー」はダイアトニックコードだけで構成されています。ダイアトニックコードだけでも十分盛りあがりなどの曲の変化がつけられるんですね。

● 「Fly Me to the Moon」

key=C ダイアトニックコード: Cm7, Dm7, Em7, Fm7, G7, Am7, Bm7<sup>5</sup>

Am7	Dm7	G7	C	Fm7	Bm7 <sup>5</sup>	E7	Am7	A7
VIIm7	IIIm7	V7	I	IVm7	(IIIm7 <sup>5</sup> )	V7	VIIm7	(V7)
T	SD	D	T	SD	(SD)	D	T	(D)

Dm7	G7	Cm7	A7	Dm7	G7	Cm7	Bm7 <sup>5</sup>	E7
IIIm7	V7	Im7	(V7)	IIIm7	V7	Im7	(IIIm7 <sup>5</sup> )	(V7)
SD	D	T	(D)	SD	D	T	(SD)	(D)

Dm7	G7	Em7	A7	Dm7	G7	Cm7	Bm7 <sup>5</sup>	E7
IIIm7	V7	(Im7)	(V7)	IIIm7	V7	Im7	(IIIm7 <sup>5</sup> )	(V7)
SD	D	(SD)	(D)	SD	D	T	(SD)	(D)

エニグマは最後の4小節を「逆転」してくり返し。

Dm7	G7	Em7	Am7
IIIm7	V7	IIIIm7	VIIm7

4小節目の E7 は key=C のダイアトニックコードではありません。これは曲全体では VIIm7 である 8小節目の Am7 を一時的に Im7 と考えてツーフाइブをついたからです。他にもいくつかこのような所があります。それを含めてツーフाइブのオニパレードですね。

**ポイント**

「一時的なツーフाइブ」をチェケラ～



# 第八回 ブルース

- ブラックミュージックの基本であり主役 -

## ● 12小節にソウルを感じる!

key=F

F7	F7	F7	F7
I7	I7	I7	I7
B7	B7	F7	F7
IV7	IV7	I7	I7
C7	C7	F7	F7
V7	V7	I7	I7

これが最も単純なブルースのコード進行です。3つのコードだけで構成されているので“スリーコードブルース”ともいわれます。ここではkey=Fを扱いますが、もちろん様々なキーで演奏されます。F7とB7は、key=Fのダイアトニックコードではありません。これは本来Fm7とBm7であったものが変化したと考えます。(だってその方がブルージーでか、ニウくんだもん) よって、F7はトニック、B7はサブドミナント、C7はもちろんだミナントです。I7で始まり、5小節目にIVがくるのがブルースの特徴です。

## ● ジャズブルース

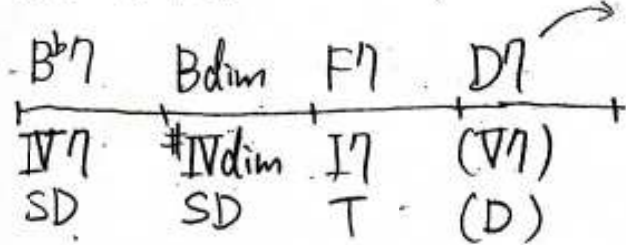
上記の単純なブルースを改造しちゃいましょう。

<9~12小節>

Gm7	C7	F7	D7	Gm7	C7
Im7	V7	I7 (V7)	IIIm7	V7	
SD	D	T (D)	SD	D	

まず、9,10小節目は11小節目のF7に対するツライヴにしちゃいます。12小節目もくり返しの1小節目のF7に対するツライヴに変形。11小節目の後半には、12小節目のGm7を一時的にIm7と考えると、そのV7であるD7をおきます。

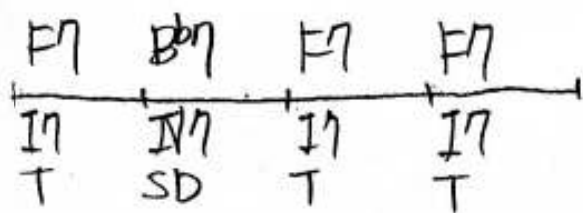
< 5~8小節 >



6小節目の B<sup>b</sup>7 = Bdim に変えちゃい  
 まあ。B<sup>b</sup>7 の構成音 (B<sup>b</sup>, D, F, A<sup>b</sup>) と  
 Bdim の構成音 (B, D, F, A<sup>b</sup>) がほぼ  
 一致しているのでも置きかえられるのであ  
 る。さらに、5~7小節目にかけて、B<sup>b</sup>7 の

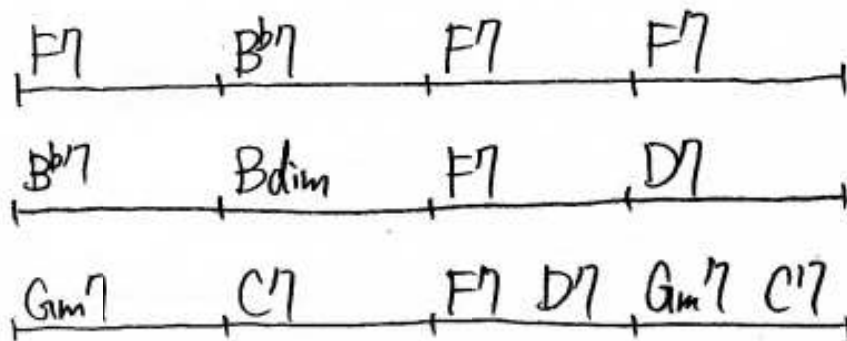
ルート (B<sup>b</sup>) → Bdim のルート (B) → F7 の5度 (C) と半音ずつ上がっていく流れ  
 ができてイカす！ 8小節目には 9小節目の Gm7 を 一時的な Im7 と  
 考えてその V7 である D7 をおきます。

< 1~4小節 >



4小節おると F7 だと飽きるので  
 2小節目を B<sup>b</sup>7 に変えちゃいました。

key = F



はい、完成です。ジャズではこのようなブルースが通常演奏され  
 ます。他にも様々なパターンがあります。

**ポイント**

スリーコードブルースから ジャズブルースへの変化を知ろう。  
 ブルースのコード進行は覚えちゃおう！